

平成 20 年度 の 実 績

ベルマーク教育助成財団の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第16期第2年度の実績は次の通りです。

(1) 参加団体の集票点数

平成20年4月から平成21年3月までの1年間の集票点数は4億4929万2640点で計画点数を約1000万点上回りました。平成19年度の実績と比べると、約1130万点の増加です。増加率は約2.6%です。前年度実績を上回ったのは昨年度に引き続き2年連続です。運動開始以来の累計は233億8318万5066点になります。

(2) 設備購入金額

ベルマーク資金で学校がこの1年間に設備品を購入した金額は5億0626万5389円でした。累計は219億8661万5782円になります。

(3) 参加団体数の変動

学校の統廃合などの影響でこの1年間に参加団体は、53減って、平成21年3月末現在、28,450となっています。世帯数では、約932万世帯になります。参加児童・生徒数は約1,042万人です。

年度末の学校種別の参加数、参加率と増加数は次の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増減数)
小学校	15,090	22,476	67.1%	35減
中学校	6,771	10,915	62.0%	31減
高校	1,192	5,242	22.7%	11減

なお、幼稚園・保育園、大学等の参加数は次の通りです。

	(参加数)	(増減数)
幼稚園・保育園	5,316	7減
大学	36	16増
公民館	45	15増

(4) 教育助成事業

平成20年度は、次のような設備品などを、国内と海外の援助対象に贈りました。(援助金額の1万円未満は四捨五入)

[国内援助]

<へき地学校>

100校に視聴覚備品やスポーツ用具、少年少女向け年鑑を贈りました。都道府県教育委員会に援助対象校の選定を依頼し、財団から対象校に贈呈品リストを示して、希望の教材備品を選んでもらいました。

このほか、教育援助（ソフト援助）として16校を対象に一輪車の一流選手による講習会を実施しました。また、15校を対象に理科の実験教室を開催しました。劇団「東少」による児童向け演劇公演「ベルマーク劇場」は全国3カ所で開催しました。「走り方教室」は4校で、イラストレーターによる絵画教室（お絵かき体験塾）は3校を対象に、それぞれ実施しました。

<養護学校>

20校に希望する教材備品類を贈りました。

<盲学校>

35校にデジタル録音図書読書機（録音機能付き）を贈りました。

<ろう学校>

15校に教材提示装置・IT収納映写ワゴンを贈りました。

<病院内学級>

4校の病院内学級に対してパソコンと自学・自習システムを贈りました。

<岩手・宮城内陸地震被災校援助>

平成20年7月24日に発生した岩手・宮城内陸地震で被災した宮城県栗原市と岩手県奥州市を中心に被害を受けた小・中学校にデジタルカメラやCDラジオカセット、液晶テレビなど各50万、合計100万円相当の教育備品を贈りました。

<北海道夕張市の子どもたちへの激励援助>

平成20年9月、統廃合などで平成22年4月に1校となる夕張市の中学校に、第10回の友愛援助の一環として「夕張の子どもたちを支援する事業」に申し込みをした全国81のPTAからの応募に財団の資金加え、総額100万円で40型液晶テレビ5台を夕張市教育委員会を通じて贈りました。

[海外援助]

<日本人学校>

日本人学校・補習授業校11校に希望の教材備品を贈りました。

<開発途上国援助事業>（括弧内は実施団体）

★ネパールの寺子屋を中心にした識字教育支援事業

(日本ユネスコ協会連盟)	300万円
★スマトラ沖大地震・大津波被災者支援 (ジョイセフ)	200万円
ラオス・カンボジアに絵本を届ける事業 (シャンティ国際ボランティア会)	150万円
★カンボジア教育整備事業 (日本ユニセフ協会)	100万円
★ラオスの学校図書室整備事業 (ラオスのこども)	100万円
★途上国に緑を「子供の森」計画事業支援 (オイスカ)	200万円
東ティモール保健教育支援 (シェア=国際保健協力市民の会)	200万円
★印は友愛援助事業です	

<中国・四川大地震とミャンマーサイクロン災害援助>

平成20年5月12日に発生した四川大地震で被災した児童、同じく5月に発生したミャンマーサイクロンで被災を受けた児童たちに対し、現地で救援活動をしているNGO団体ジョイセフを通じて各100万円、合計200万円を災害援助として贈りました。また、ミャンマーのヤンゴン日本人学校に対し、鉄棒や雲梯などの建設費52万円を災害援助として贈りました。

[友愛援助]

平成19年度に呼びかけた第10回友愛援助に対して124校から388万円の拠出の申し出があり、これに財団の資金を加え総額900万円の事業費で、以下の6事業を20年度の「友愛援助」として実施しました。

「ネパールの寺子屋を中心にした識字教育支援事業」「スマトラ沖大地震・大津波被災者支援」「カンボジア教育整備」「ラオスの学校図書室整備」「途上国に緑を『子供の森』計画支援」「夕張の子どもたちを支援」

[表彰事業]

朝日新聞社の「朝日のびのび教育賞」の副賞として5学校・団体に各20万円を贈呈しました。

[協賛・協力会社]

平成20年5月に損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社、8月に日活株式会社、9月に株式会社ファインプラス、21年3月にはキリン・トロピカーナ株式会社の4社が協賛会社として参加しました。協力会社の日本ビクター株式会社が21年3月で、脱退しました。この結果、平成21年3月末現在での協賛会社は62社、協力会社は19社です。なお、4月1

日付で住友スリーエム株式会社が協賛会社として参加しましたので、21年度の協賛会社数は63社となります。

以上